

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会 丁稚奉公 前回「寺子屋」についてのお話を致しましたが、もう一つその時代に並列的に11～12歳位を初めとした「丁稚奉公」という仕組みがあった。主に商家や職人の子弟が、商家や職人の家に住み込みで年季奉公とか師弟関係で行われていた。この「奉公人」という仕組みは、基本的に住み込みで衣食住は保証されていた。また、盆と小正月には休暇となり親元へ帰り、その際には小遣いや着物・下駄なども支給された。（この仕組みの中では、親は基本的にはお金は掛からないが、親の身分や収入の範囲で、季節の行事ごとがあると寄付などすることはあった。）

「丁稚」は、住み込みとなり使い走りや雑役、仕事をしながら礼儀作法を含め、商人のイロハや読み書き・ソロバン・九九・手紙の書き方・商売用語などが教えられた。15～18歳位の「元服」（今の成人式）の時期からは「手代」となり、直接商いに関する仕事をするようになる。手代となると、丁稚時代とは違い、多少の給与も出た。

30歳前後になると今の中間管理職（課長や部長）のような仕事をする「番頭」となり、その後は、「大番頭」や「のれん分け」（独立）の道へと開かれていく。

この仕組みのメリット・デメリットはありますが、何と言っても相対的な「教育費が少ない」という親のメリットと今でいう事業所がローコストで人が雇え、自社事業に適した教育が出来ることだろう。この様形態でのデメリットは、今でいうブラック企業になり易い点である。つまり就業時間が長いからであろう。（長時間労働・薄給：ある時期までは仕事量と給与が釣り合わない）

この形態とよく似たのが、外国人用の「研修制度」である。仕事は教えるが研修目的であるので、基本的に給料は安く（食住は支給して、給与は小遣い程度の5万円位）、確か3年目からは給料も上がるようである。これとよく似た形態で、仕事を覚える間は食住を負担し、給与も小遣い程度の世界が未だに残っていることもあるのが、料理人と理容・美容かも知れない。本人が技術や一人前になるために、ある時期、親の負担が少ないこの様な形式が、格差社会で経済的に苦しい家庭の子弟が、社会に巣立つまで利用するケースとして、現代風にアレンジして見直されるべきかも知れない。

八幡町 八幡の意味は、清く。正しく。全く偽りのない晴天白白いう。武士の誓いに「八幡」を使う。この土地は八幡宮が鎮座するようになり、「八幡村」という。

大正14年の改正時に出来た新地名が「八幡町」である。鳳印は明治時代から八幡宮の提灯にある親子の鳩に八の字を表し、鳩八といわれたが、昭和の初め神社の紋所鳩に旭をあしらった図柄にした。

昭和35年頃、消費生活協同組合が設置され、公会堂の横に「100円床屋」が資本金23万円で開設され、平成2年頃まで営業していた。この頃を知る人にとってはとても懐かしい思い出の場所でもある。

六間道路と遠鉄線が交差する踏切には警手のいる小屋があり、遮断機を操作していたが、度々大きな事故があり、昭和59年には高架となり事故も減少した。

また八幡宮には、三方原の合戦時に家康が隠れたとされる「雲立ちの楠」が有名な場所の一つとなっている。



八幡町 屋台

「同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男
連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX：(053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp

八幡町：世帯数470 男465人 女495人
計 960人 （令和3年現在）

**八幡中学のホームページに「同窓会だより」のコーナーがあり、スマホやパソコンで見られます。
皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。この「同窓会だより」は毎月発行します。**